

事業所名

そよかせ

支援プログラム（参考様式） 放デイ

作成日

令和6年

8月

9日

法人（事業所）理念		良質の安定した、保健、医療、福祉サービスを継続して提供していけるようなシステム作りを目指し、それを実践していくことによって、地域住民から信頼され、地域のメンタルヘルス活動の拠点として役割を果たします。		
支援方針		個別療育および家庭における取組を重視しています。そのため、療育中は保護者の同席が必須です（預かりは実施していません）。短期的には学校などの社会場面における集団適応、学習活動への参加継続を目指します。長期的には就労や自立した生活を目指します。個別療育では、言語訓練（音声模倣や命名等）や自立課題、マッチングなどを実施します。一方で、自主性を重視し、訓練への参加を強制するような対応はしません。学校と情報共有を行い、必要に応じて訪問等の方法により連携を図ります。		
営業時間		【月・水・金】9時から19時まで 【火・木】9時から17時まで	送迎実施の有無	あり <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">なし</span>
支援内容				
本人支援	健康・生活	【食事】偏食や食事時の離席などの問題に対応しています。指導を通して、いろいろな食材を自ら食べ、食事中には席を立たずに最後まで座っていただけることを目標にします。家庭における食事場面について、必要に応じて記録をしていただいたり、場合によっては録画によって確認させていただきます。		
	運動・感覚	【姿勢の保持】走る、投げるなどの粗大運動だけでなく、療育では、指先を使った微細運動を取り入れます。さらに、年齢によって異なりますが、一定時間着席をして課題に取り組むことができるよう支援します。		
	認知・行動	【計算】年齢や個人に合わせて四則演算の課題を取り組みます。時計の読み方やお金の使い方など日常生活に必要な練習を行います。		
	言語 コミュニケーション	【模倣】動作模倣、口形模倣、音声模倣に取り組みます。模倣訓練を通して、視線合わせや指示従事などコミュニケーションに重要な行動を練習します。 【痲癩】痲癩対応に取り組んでいきます。痲癩を起こさず適切な言動で要求ができることを目標とします。家庭と連携して痲癩の起きる原因と頻度の把握を行い、必要に応じて保護者への指導を行います。		
	人間関係 社会性	【対人関係】遊びやロールプレイを通してSST（ソーシャル・スキルトレーニング）に取り組みます。学校生活や社会で生活していくために対人関係を良好に維持する技能を身に付けることを目標にします。 【場面緘黙】特定の場面で発話なくなる緘黙の緩和に取り組みます。家庭での発話などの不安の低い場面から学校での発話などの不安の高い場面へと段階的に課題を実施します。		
家族支援		家庭における取組みを具体的に提案し、記録を通して支援の過程を客観的に確認し助言していく。	移行支援	園と連携を図るために、必要に応じて園を訪問し支援内容等の具体的な関わり方について情報共有をする。
地域支援・地域連携		家庭に対して最適な支援が行えるよう、必要に応じて関係機関と連携を図る。	職員の質の向上	毎週、1回以上スタッフミーティングを開催し、その中で、効果的な支援について具体的に話し合い、実践に反映させている。また、利用者の行動の測定等によって取組みの効果を常にモニタリングし、PDCAサイクルをまわしながら職員の質の向上に努めている。
主な行事等		避難訓練、買い物練習		